環境問題と郵便切手（解説）

１．**環境問題と郵便切手**

 郵便切手は、各種行事その他を記念する等特別の目的をもって随時発行する記念切手とそれ以外の郵便切手（通常切手）があります。記念切手は様々なテーマで発行され、環境問題に関する切手も発行されています。これまでに発行された環境問題に関する切手を通して改めて環境問題を考えましょう。

２．**はじめに**

環境問題に関する切手が他のテーマの切手と異なる点は、スローガンが記されている切手が多いことです。このスローガンはその時々の環境問題を反映しています。第二次世界大戦から現在までを環境問題の推移を、４期に区分しました。私の区分です。

Ⅰ期　1945年～

　　第二次世界大戦後の荒廃した自然環境を回復し、保護する時代

　　「植林」、「CONSERVATION」、「PROTECT」

Ⅱ期　1970年代～

　　公害による環境問題の発生と公害防止の時代（地域の環境問題の時代）

　　「SAVE」、「UMWELTSCHUTZ（環境を守る）」、「LUTTE（闘争）」

Ⅲ期　1990年代～

　　環境問題が地域から地球規模に拡大した時代

　　（アジェンダ21、気候変動枠組条約、生物多様性など）

　　「砂漠化防止」、「オゾン層保護」、「熱帯雨林保護」、「海洋汚染」など

Ⅳ期　2000年代～

　　地球規模の環境問題の深刻化（地球の危機が叫ばれる時代）

　　「GLOBAL　WARMING（地球温暖化）」、「CLIMATE　CHANGE（気候変動）」、「SDGs」

　　「ACT　NOW」、「DON’T CHOOSE　 EXTINCTION（絶滅を選ぶな）」

３．**世界の環境年表（1）**

世界の環境関連の主な出来事と代表的な切手です。

日本の植林の切手、オーストリアの自然保護の切手、アメリカの環境保護の切手です。

「ＳＡＶＥ」が使われ、環境に対する危機感が現れています。

1972年に開催された国際連合人間環境会議開催（ストックホルム）の記念切手です。（スウェーデン）

1997年のオゾン層保護を訴える切手です。（ロシア）

４．**世界の環境年表（2）**

アフリカのトーゴ共和国の「砂漠化」防止を訴える切手です。

キリバス（太平洋の赤道付近にある島国）の地球温暖化により、海水面が上昇し、国土が水没するので、温暖化防止を訴えた切手です。

マカオのリサイクルの切手、スロベニア（イタリアに隣接した中央ヨーロッパの国）の海洋汚染の切手、インドネシアの地球温暖化により極地の氷山が溶けるのをホッキョクグマが涙をためて悲しんでいる切手。

アルゼンチンの熱帯雨林の保護を訴えた切手で、熱帯雨林の減少を時系列で示している。また、熱帯雨林の減少を切手に穴を空けて表している珍しい切手。

インドネシアの切手で、ヒト（人類）がかけがえのない地球を食いつぶしていることを訴えている。

地球温暖化防止のためにできることを訴えたオーストラリアの切手、

SDGｓを推進するための国連のキャンペーン「ＡＣＴ　ＮＯＷ」の切手。

５．**自然環境回復**

第二次世界大戦後、荒廃した国土を回復するために、自然環境の保護（主に森林回復のための植林）の切手が発行されました。その後、土壌の保護、水質保護、自然環境に生息する野生生物の保護をテーマとした切手が発行されました。

日本の国土緑化の切手で、1948年に発行され、現在まで継続して発行されています。

中華民国の植林の切手。

フランスの植林の切手で、1965年に発行され、スローガンは、「100万ha　植林運動」

東ドイツが1969年に発行した切手で、森林の効用（効果的な利用方法）と保護を訴えた切手。

植林の切手は、これ以降も各地（アフリカ、アジア、南アメリカなど）継続的に発行されています。

６．**自然環境保護**

自然環境の回復から自然環境の保護に視点が移動していますが、保護の内容は、現在の自然環境を維持するという思いです。

用語としては「CONSERVATION」がよく使用されます。和訳では、「保護」、「保存」ですが、ニュアンスとしては、「「何かを危険から守って（protect）、変化やダメージを防ぐ」です。現状維持です。

オーストリアの切手で、1962年10月12日の発行で、オーストリアの自然環境（森林）

を描いています。

1956年から1960年にかけて発行されたUSAの切手で、野生生物、森林、土壌、水資源の保護（現状維持）を訴えている切手です。

７．**公害防止**

産業の復興と共に公害（大気の汚染、水質の汚濁、土壌汚染など）が発生します。

公害は、発生地域が限定され、被害者・加害者が明確で法律により規制が有効です。公害は、世界各地域の産業の発達状況などにより、進捗具合は違いますが、現在も継続されている問題です。

1970年10月にUSAで発行された切手です。

標語が「SAVE　OUR　・・・・」になっています。生活している環境が、危険であることを（救助が必要）強く訴えています。

「CONSERVATION」から「SAVE」へ人を取り巻く環境の急変を訴えています。

1970年9月にスイスで発行された切手で、公害規制のため、欧州20カ国が国際的共同行動を取ろうという、ヨーロッパ自然保護のシンボルマークです。これ以降に発行された切手によく使用されています。

1972年4月にモナコで発行された切手は、公害により、自然環境が悪化し、生物が被害を受ける事を1枚の切手に描いています。

1973年6月5日（世界環境の日）に発行された切手は、廃棄物、騒音など私たちに身近な公害を取り上げています。

８．**国際連合人間環境会議**

1972年6月スウェーデンのストックホルムで開催され、人間環境宣言及び環境国際計画が採択されました。この会議以降、環境問題の範囲が、限定された地域から地球規模に拡大したため、法律で規制することに限界があり、加害者・被害者が明確ではなくなりました。

1972年6月5日に発行されたスェーデンの2枚の切手です。1枚には国連環境計画（UNEP）のシンボルマークと「たった一つの地球」を意味する各国の言葉が印刷されています。

この会議の開催を記念して発行された切手の一例で、「大韓民国」と「イラン」の切手です。

また、地球規模の環境問題として、砂漠化防止とオゾン層保護を取り上げた切手です。

９．**環境と開発に関する国際連合会議**

1992年6月ブラジルのリオデジャネイロで「環境と開発に関する国際連合会議」が開催されました。

この会議で「環境と開発に関するリオデジャネイロ宣言」（リオ宣言）と、この宣言の諸原則を実施するための行動計画である「アジェンダ21」、「森林原則声明」が合意されました。また、「気候変動枠組条約」

と「生物多様性条約」が提起されました。

1990年代以降、環境問題を地球の問題として捉えるようになり、地球環境の悪化特に地球の温暖化に対し、様々な対策や温暖化阻止の運動が行われています。

1993年11月にツバルで発行された切手です。ツバルは、オセアニアにある島国です。地球温暖化により変化する自然環境を保護することを訴えています。この年以降も繰り返し、地球温暖化阻止を訴えています。

気候変動に関する国際連合枠組条約は、1994年3月21日に発効し、第1回締約国会議（COP1）が1995年3月にドイツのベルリンで開催されました。以後、毎年開催されています。

1992年9月にイギリスで発行された切手で、児童画で、酸性雨、地球温暖化、オゾン層保護、汚染された土地を浄化する希望の鳥を描いています。

１０．**砂漠化防止**

砂漠化の問題に国際的に取り組んで行くため、1994年6月17日に「深刻な干ばつ又は砂漠化に直面する国（特にアフリカの国）における砂漠化に対処するための国際連合条約」

が採択され、1996年12月に発効しました。砂漠化対処条約は、特にアフリカ諸国を中心とした開発途上国において深刻化する砂漠化問題に対し、国際社会がその解決に向けて協力することを目的としています。

2011年2月に発行されたアフリカのトーゴの切手です。アフリカ西部にあり、北部がサハラ砂漠の南縁に沿っている地域（サヘル）に含まれている。

現地の砂漠化の状況を切手描いて切手にしています。

2011年4月にイラクで発行された切手で、砂漠化に対処するために植林を推進しています。イラクの現状は、干ばつ、砂漠化、降雨量の減少により、水不足が進行しています

1994年4月に発行された中国の砂漠化防止の植林のキャンペーンの切手です。

１１．**オゾン層保護**

オゾン層保護のためのウィーン条約が1985年に採択され、この条約に基づき、オゾン層を破壊するおそれのある物質を指定の規制を目的としたモントリオール議定書が、1987年に採択されています。

1997年9月にペルーで発行された切手で、オゾン層の保護を推進するキャンペーンの切手です。発行された9月16日は、モントリオール議定書が採択された日で、国連が定めた国際デーです。小鳥が草花にあふれている地球を保護する（紫外線などから）手の図案は、世界中で採用されている図案です。同じような図案で各国から発行されています。

2008年9月にモルディブ（インドの南西洋上にある島国）で発行された切手です。オゾン層保護を訴えた文章と生徒が描いたポスターのミニチュアシートです。

1999年9月にクロアチア（ユーゴスラビアを構成していた国の一つで1999年に独立した）で発行された切手です。雲の中のO3（オゾンの分子式）が銀色の切手です。オゾン層に穴が開いているように見えます。

1999年11月にガーナで発行された切手で、オゾン層破壊の原因のフッ素化合物や、オゾン層は破壊されることにより発生する地球に対するダメージを図案化した切手です。

１２．**森林保護**

国際連合食糧農業機関（FAO）の「世界森林資源評価2020」による世界の森林面積の増減状況。

1）1990年から2020年までの世界各地における森林減少面積（植林による森林面積の増加分を考慮しない値）は、1580万ha（1990-2000）から1020万ha（2015-2020）と改善している。過去30年間における森林減少の9割以上は熱帯地域で生じている。

2）地域別に見たとき2015年から2020年において森林減少面積が最も多かったのはアフリカ（年平均441万ha）であり、これに南米（296万ha）、アジア（224万ha）と続く。

3）世界における人工林面積は2億9400万haであり、森林全体の7％を占める。

1992年6月にドイツで発行された、熱帯雨林保護を訴える切手。

2004年3月に発行されたアルゼンチンの切手で、1914年～2004年のアルゼンチンの原生林の減少を示して、原生林の保護を訴えている。連刷で、右の切手には実際に穴が開いており、原生林の減少を象徴的に表現している珍しい切手。

2010年5月にカンボジアで発行された切手で、森林保護のキャンペーン用切手。

2017年6月に発行された、植林のキャンペーン用切手でスローガンは「一生の間に25本の木を植える」です。

2018年2月にパキスタンで発行された切手で、パキスタンの植林運動「グリーンパキスタン」のキャンペーン用です。

１３．**海洋汚染**

国連海洋法条約（1994年11月16日発効）による「海洋汚染」の定義は、「「生物資源及び海洋生物に対する害、人の健康に対する危惧、海洋活動に対する障害、海水の利用による水質の悪化及び快適性の減少というような有害な結果をもたらし又はもたらす恐れのある物質又はエネルギーを人間が直接的又は間接的に海洋環境に持ち込むこと」です。

1975年12月にイスラエルで発行された、タンカーによる「油汚染」防止のキャンペーン用切手です。

1982年７月にドイツで発行された、海洋汚染に関する切手です。スローガンは、「海の汚染を防ぐ」です。

1986年4月にフェロー諸島（イギリスのスコットランドとアイスランドの間の北大西洋上にあるデンマークの自治領）で発行された切手で、船舶からの廃棄物の海洋投棄による海洋汚染を訴えています。

1998年12月にセネガル（アフリカ最西部の国）で発行された切手で、海洋埋立と下水道の排水による海洋汚染を訴えています。

2018年11月にスロベニア（ユーゴスラビアを構成していた国の一つで、1991年に独立した。イタリアと国境を接している。）で発行された切手で、プラスチック（マイクロプラスチック）による海洋汚染防止を訴えています。

2013年２月にクック諸島（オセアニア東部、ポリネシア東部にある南太平洋上の島国）で発行された海のプラスチック汚染反対のキャンペーン用切手です。

2022年6月5日にトルコで発行された海洋汚染反対の切手です。

１４．**廃棄物・リサイクル**

環境負荷が少ない持続可能な社会の構築には、大量生産、大量消費、大量廃棄の社会から廃棄より再使用・再利用を重視し自然生態系への排出物を最小限にするような「循環型社会」を形成することが重要な課題となっています。

1942年スイスで発行されたリサイクルを訴えた切手です。（多分、廃棄物に関する世界最初の切手です。）この切手は、第二次世界大戦中に発行され、資源の有効利用を訴えたもので、発行された当時の資源不足の状況と現在の廃棄物問題（大量生産、大量消費）との関係は少ないと思いますが、資源を大切にすることに変わりはありませんので、紹介しておきます。

2012年5月にドイツで発行された切手で、グリム童話のカエルの王様に材をとったもので、廃棄物をカエルに例えています。「廃棄物は原料です」

2018年にスロベニアで発行された切手で、ごみ（食料品のごみ）の減量を訴えています。

2019年6月にトルコで発行された切手で、「ごみゼロ運動」のキャンペーン用切手です。

2002年6月5日にマカオで、2011年4月に香港で発行されたリサイクルのキャンペーン用切手で、標語は「循環再造」です。

１５．**地球温暖化**

地球の温度は、太陽からの日射エネルギーと地球から放出される熱放射のバランスによって定まりますが、地球の地表面から放射される赤外線は、二酸化炭素などの温室効果ガスに吸収され、再放射されて地球の大気を温めます。この現象が温室効果であり、産業革命以後、化石燃料（石炭、石油）の消費により二酸化炭素の増加が著しいものとなり、地球の温度を上昇させています。

地球の温暖化は、各国で発行されていますが、代表的な切手を紹介します。

1998年11月にキリバス（赤道付近の太平洋上に位置する島国）で発行された切手で、地球温暖化による海面上昇により、国土が水没する可能性があることを訴えています。

2007年9月にツバル（オセアニアに位置する太平洋上の島国）で発行された切手で、トニー・ブレア（イギリス73代首相）の言葉を引用して、地球温暖化に対する危機感を強く訴えています。

2009年6月にイスラエルで発行された切手で、温度上昇により地球が被害を受ける事を寓話的（フライパン上の地球が融けてしまう）に訴えた切手の一例です。

2017年3月にベルギーで発行された切手で、地球の平均気温の1950～2017年の温度変化を表しています。また、2015年パリで開催された、気候変動枠組条約締約国会議（COP21）で地球の平均気温を2℃削減する目標を視覚化した切手です。

１６．**気候変動**

気候変動は、気温および気象パターンの長期的な変化を指します。これらの変化は太陽周期の変化によるものなど、自然現象の場合もありますが、産業革命以降は主に人間活動による二酸化炭素などの温室効果ガスの増加による地球温暖化が気候変動を引き起こしています。現在見られる気候変動の影響には、深刻な干ばつ、水不足、大規模森林火災、海面上昇、洪水、極地の氷の融解、壊滅的な暴風雨、生物多様性の減少などが挙げられます。

2007年６月5日にインドネシアで発行された切手で、北極の代表的動物である白熊が涙を流して「溶ける氷はホットな話題？」とつぶやいて、極地保護（地球温暖化防止）を訴えている切手です。ちなみに南極の代表的動物はペンギンです。

2021年12月にオーストリアで発行された切手で、「ストップ気候変動」を訴えています。

2017年11月にウォリス・フツナ（太平洋上にあるフランスの海外準県（フランス領））で気候変動による影響「海岸隆起或いは海岸浸食、サンゴの白化、サイクロンの発生、海洋酸性化」の被害を訴えています。切手中央部には、被害（影響）を与えたサイクロン名と被害地名を記述しています。

１７．**かけがえのない地球**

環境問題を地域ではなく地球全体として捉える意識が広まり、地球は、私たちにとってかけがえのないものであることを訴える切手が数多く発行されています。

2014年3月にベルギーで発行された切手は、2014年3月29日8：30PM～9：30PMの地球(衛星写真）を示しています。

2015年6月5日にインドネシアで発行された切手は、「70億の夢。一つの地球。注意して消費を」の標語と共に、人（人類）が地球を食いつぶしているショッキングな寓意画です。

2020年3月にスペインで発行された切手は、地球をいつくしんでいる人（人類）の寓意画で、標語は「気候変動に反対する」同様に地球をテーマとして地球環境の保護を訴える切手は、各国で発行されています。

2021年3月にアイルランドで発行された切手は、私たちに気候変動に対する行動を起こすことを訴えています。

2022年6月にリトアニア（ポーランドなどと国境を接する北ヨーロッパの国）で発行された切手は、地球を慈しむことを訴えています。

2023年6月に発行された切手は、地球から人類が零れ落ちてしまうことを砂時計で寓意的に示しています。

１８．**環境に配慮して行動する**

京都議定書（1997年11月に京都で開催された気候変動枠組条約締約国会議（COP21）の議定書）で、地球温暖化の原因となる、温室効果ガスの一種である二酸化炭素、メタン、亜酸化窒素、ハイドロフルオロカーボン類、パーフルオロカーボン類、六フッ化硫黄について、1990年(平成2年)を基準として各国別に先進国における削減率を定め、共同で約束期間内に目標値を達成することが定められて各国で温室効果ガス削減に取り組んでいます　が、21世紀になったころから、温室効果ガス削減（気候変動）のために、地球で生活している私たち一人一人ができることを行おうというキャンペーンの切手が発行されるようになってきました。

2008年1月にオランダで発行された切手で、ハイブリット車の使用、植林によるCO2の吸収、風力発電などの実行を訴えています。

2008年6月にセネガルで発行された切手で、身近でできること（木をむやみに伐採しない、焚火はしない、ごみを拾う、木を野生動物から守る）を訴えています。

2008年7月にオーストラリアで発行された切手で、「水を節約する。ごみを減量する。賢く旅行する。省エネルギー。」を寓意的な図案で訴えています。

１９．**持続可能な開発目標（SDGｓ）と「ACT　NOW 」**

現在、私たちが直面している貧困や不平等、気候変動、環境劣化などグローバルな諸課題の解決を目指すために2015年9月の国連総会で持続可能な開発目標（SDGs）（2030アジェンダ）が採択されました。2030年までに達成すべき17の目標と169の達成基準が示されています。

「ACT NOW」は、温室効果ガスの排出量正味ゼロの社会をつくるために、私たち個人による気候変動対策をグローバルに呼びかける国連のキャンペーンです。

2020年9月にアゼルバイジャン（中央アジアにあり、イラン、トルコなどと国境を接している）で発行された切手で、国連の「ACT　NOW」キャンペーン用の切手です。

同様の切手は、国連などから発行されています。

２０．**フランキーの訴え**

国連開発計画（UNDP）が2021年10月27日、公式ツイッターに恐竜の動画を投稿しました。国連総会に突如、すでに絶滅している恐竜（フランキー）が乱入して「人類はもう言い訳をやめて、世の中を変え始めないとだめだ」と演説を始めるというもので、10月31日に開催される、気候変動枠組み条約第26回締約国会議（COP26）のキャンペーンの一環です。この動画の一場面を切り取って、国際連合から2023年6月23日に発行された切手です。恐竜は、小惑星（隕石）の地球への衝突による気候変動により絶滅していたといわれています。一方、人類は、化石燃料の大量消費などの活動により、二酸化炭素などの温室効果ガスの増加により、気候変動を招き、最近は異常気象に苦慮しています。この状況を打破するためには、人類が一丸となって、気候変動対策に取り組む必要があることを強く訴えています。